

# 田代よいとこーその18ー甲州みち

今回は、愛川町を通過していた甲州みちについてのお話です。

上野原のバス停近くに写真④のような道標が立っています。説明板にこうありました。

**「田代上原道標** この道は、かつての甲州みちであった。厚木市の打越(おっこい)から、当町の海底を経て、中津川をわたり、関場坂からここに至り、それから志田峠を越え、津久井の鼠坂の関所を過ぎて吉野宿へと通じる、小田原から甲州への通路であった。道標には『甲州道中』『右よしのねんさか道』とあり、江戸中期ころの建立とされている。また、近世には、領主の使臣が村むらを巡回する道すじであったことから『巡見道』とも呼ばれ、ほかに『津久井道』『志田道』の名もあった」



＜写真④＞

愛川町を通る甲州みちを地図に落としてみました。

『新編相模国風土記稿』の田代村の条に「甲州道 東方を通す 幅六尺より九尺に至る」とあるのがこの道です。この道は実は江戸期と明治期では多少ルートが違っていますが、今回は江戸時代の甲州みちについて紹介します(下の地図には明治期のルートも載せました)。

上記のルートをもうすこし詳しく見ていきましょう。

**厚木ー妻田ー荻野新宿ー荻野神社ー上荻野の打越峠ー海底ー田代下原ー上野原ー志田峠ー葦尾根(にろおね:旧津久井町)ー串川(同)ー三ヶ木(みかげ:同)ー寸沢嵐(すわらし:旧相模湖町)ー鼠坂(ねんさか)の関(同)ー勝瀬(同、現在は相模湖の湖底に沈んでいる)ー吉野宿(旧藤野町)→甲州に入る。**

江戸時代には日本橋を起点に五街道があり、そのうちの1つが甲州街道です。日本橋から八王子、小仏と来て相模国に入り、小原(旧相模湖町)、与瀬(同)、吉野(旧藤野町)、関野(同)の4宿を通過して下諏訪まで延びる主要街道でした。このメインルートに接続する道が甲州みちと呼ばれるもので、部分的に信玄道とも重なっています。

『小字別明細図』(愛川町税務課)より

愛川町に於ける小字名



赤:江戸時代のルート  
緑:明治時代のルート

【取材協力】成井啓七氏、大根田雄康氏

【参考文献】『新編相模国風土記稿 第3巻』(雄山閣 昭和55年)

『愛川町郷土誌』(愛川町 昭和57年)

『津久井歴史ウォーク』(前川清治 東京新聞出版局 平成15年)

『愛甲郡(愛川町・清川村)明細地図』(昭和46年版 明細地図社)

①海底地区の日月神社 ここを上ると ②金毘羅社 右手の「馬坂」を経て打越へ。

③関場坂 ここを上りつめると ④の道標

⑤旧平山坂入口